

地域・業種による  
国内旅行の動向比較  
～近年の変化と今後の課題～

{グループ、メンバー名挿入部}

# グループの発表テーマと取り組み

- 観光客数の増減とその動向を調査
- 各地域、業種の具体的な改善策や取り組みを調査、比較
- 調べた結果から、今後の国内観光が抱える課題と展望を考察

# 日本における観光業について

# 観光業の特徴

高齢化や人口減少、基幹産業の海外移転が進む中で交流人口を増加させ、幅広い経済波及効果をもつ観光産業の振興に取り組む自治体が増えている。

# 観光業の経済効果

	2000	2001	2002	2003	2004
生産波及効果	53.8兆円	48.8兆円	49.4兆円	53.9兆円	55.4兆円
雇用創出効果	422万人	393万人	398万人	442万人	475万人
GDP比	5.5%	5.4%	5.4%	5.6%	5.9%
雇用者数 (全産業比)	6.3%	5.9%	6.0%	6.8%	7.3%

・一時的に落ち込む年もあったが順調に成長を続け、2004年の時点でGDP比5.9%、全就業者中7.3%が観光産業従事者という一大産業となっている。

# 付加価値額の推移（GDP比）

	2001	2002	2003
旅行・観光	2.1%	2.1%	2.4%
農林水産	1.4%	1.4%	1.3%
食料品	2.7%	2.5%	2.5%
一般機器	2.0%	1.9%	1.8%
輸送機器	2.2%	2.3%	2.7%

・付加価値額とは、その産業の経済活動に伴って発生する他産業（宿泊や運輸、飲食、旅行業など）において発生する利益など

# 部門別雇用の全体比

	2001	2002	2003
旅行・観光	2.7%	2.8%	3.2%
農林水産	6.4%	6.2%	6.0%
食料品	2.4%	2.4%	2.4%
一般機器	2.1%	2.1%	2.0%
輸送機器	1.5%	1.6%	1.6%

- ・全体的に雇用者数が減少している中で観光業従事者は増加してきている。

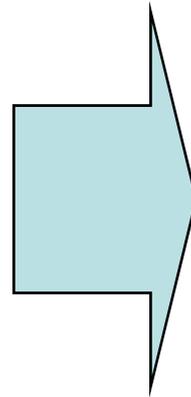
# 観光業の発達による影響

- ・国外から観光客を集めることが出来れば外貨を獲得することが出来る。
- ・自然や歴史などを観光資源とする場合、それらの保護のために都市化が抑制される

# バブル期以降の国内観光

## バブル期以前の観光

- 薄利多売の経営
- 観光は主要なレジャー
- 団体旅行
- 海外旅行はまだ高価
- ニーズが均一
- 裕福な家庭の増加



## バブル期以降の観光

- 高単価の経営
- レジャーの多様化
- 個人、少人数旅行
- 安価な海外旅行の出現
- ニーズの多様化
- 裕福な家庭の減少

# レジャーの多様化

図表4 余暇市場全体と部門別の推移

	1990年(H2)		1995年(H7)		2000年(H12)		2005年(H17)		増減	
	金額(億円)	構成比	金額(億円)	構成比	金額(億円)	構成比	金額(億円)	構成比	05/90	05/98
<b>余暇市場全体</b>	<b>449,120</b>	<b>61.6%</b>	585,030	67.2%	559,090	67.2%	<b>539,490</b>	<b>67.4%</b>	539,490	67.4%
鑑賞レジャー用品	41,120	5.6%	37,940	4.4%	37,370	4.5%	38,010	4.4%	35,540	4.4%
うち音響機器製品	14,990	2.1%	11,560	1.3%	11,110	1.3%	9,180	1.1%	8,780	1.1%
うちテレビ	11,480	1.6%	10,210	1.2%	12,010	1.4%	14,950	1.8%	13,900	1.7%
うちビデオソフト(レンタル含む)	1,660	0.5%	4,440	0.5%	4,960	0.6%	5,540	0.7%	4,740	0.7%
うちCD(レンタル含む)	5,020	0.8%	8,570	1.0%	6,360	0.8%	5,430	0.7%	5,400	0.7%
<b>娯楽</b>	<b>449,120</b>	<b>61.6%</b>	<b>585,030</b>	<b>67.2%</b>	<b>559,090</b>	<b>67.2%</b>	<b>539,490</b>	<b>67.3%</b>	<b>539,490</b>	<b>67.4%</b>
ゲーム	182,390	25.0%	294,470	33.8%	304,320	36.6%	306,140	37.6%	299,500	37.4%
うちパチンコ(貸玉料)	169,460	23.2%	280,570	32.2%	292,250	35.1%	297,860	36.6%	287,490	35.9%
ギャンブル	89,780	12.3%	85,860	9.9%	71,690	8.6%	64,480	7.9%	63,490	7.9%
うち中央競馬	30,980	4.2%	38,010	4.4%	31,330	3.8%	29,310	3.6%	28,950	3.6%
飲食	174,050	23.9%	198,910	22.9%	178,930	21.5%	173,020	21.3%	172,290	21.5%
外食	109,460	15.0%	132,660	15.2%	124,830	15.0%	120,740	14.8%	120,670	15.1%
カラオケボックス(ルーム)	2,900	0.4%	5,790	0.7%	4,150	0.5%	4,100	0.5%	4,210	0.5%
<b>観光・行楽</b>	<b>121,710</b>	<b>16.7%</b>	<b>113,620</b>	<b>13.1%</b>	<b>108,740</b>	<b>13.1%</b>	<b>105,540</b>	<b>13.0%</b>	<b>106,860</b>	<b>13.3%</b>
自動車関連	34,470	4.7%	30,970	3.6%	31,500	3.8%	29,150	3.6%	29,210	3.6%
国内観光・行楽	20,160	11.0%	74,870	8.6%	69,230	8.3%	67,760	8.3%	68,570	8.6%
鉄道	13,300	1.8%	13,980	1.6%	14,120	1.7%	13,750	1.7%	13,860	1.7%
貸切バス	5,620	0.8%	4,690	0.5%	4,050	0.5%	4,190	0.5%	4,300	0.6%
国内航空	3,310	0.5%	3,610	0.4%	3,530	0.4%	3,670	0.5%	3,600	0.5%
遊園地	5,580	0.8%	5,080	0.6%	6,590	0.8%	6,320	0.8%	6,300	0.8%
その他	32,020	4.4%	24,460	2.8%	20,710	2.5%	19,790	2.4%	19,700	2.4%
下	9,330	1.3%	10,210	1.2%	10,180	1.2%	10,230	1.2%	10,200	1.2%
その他	450	0.1%	380	0.0%	230	0.0%	180	0.0%	180	0.0%
その他	2,510	0.3%	2,170	0.2%	1,010	0.1%	780	0.1%	780	0.1%
その他	1,030	0.1%	2,600	0.3%	1,980	0.2%	2,150	0.2%	2,150	0.2%
その他	7,010	1.0%	7,690	0.9%	6,830	0.8%	6,700	0.8%	6,700	0.8%
その他	6,940	1.0%	7,780	0.9%	8,010	1.0%	8,630	1.0%	8,630	1.0%
<b>その他</b>	<b>121,710</b>	<b>16.7%</b>	<b>870,150</b>	<b>100.0%</b>	<b>832,480</b>	<b>100.0%</b>	<b>813,410</b>	<b>100.0%</b>	<b>813,410</b>	<b>100.0%</b>
<b>2005年(H17)</b>	<b>539,490</b>	<b>67.4%</b>								
<b>2005年(H17)</b>	<b>106,860</b>	<b>13.3%</b>								

出所: 財団法人社会経済生産性

# 客層の変化(その1)

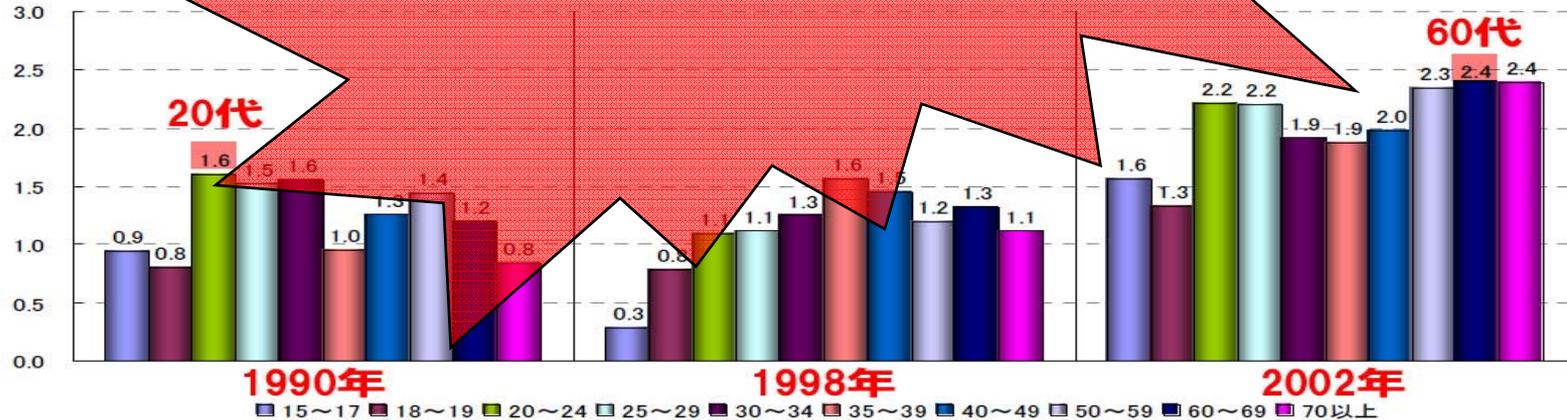
【女性】

性別年間平均旅行回数



高齢者客の増加

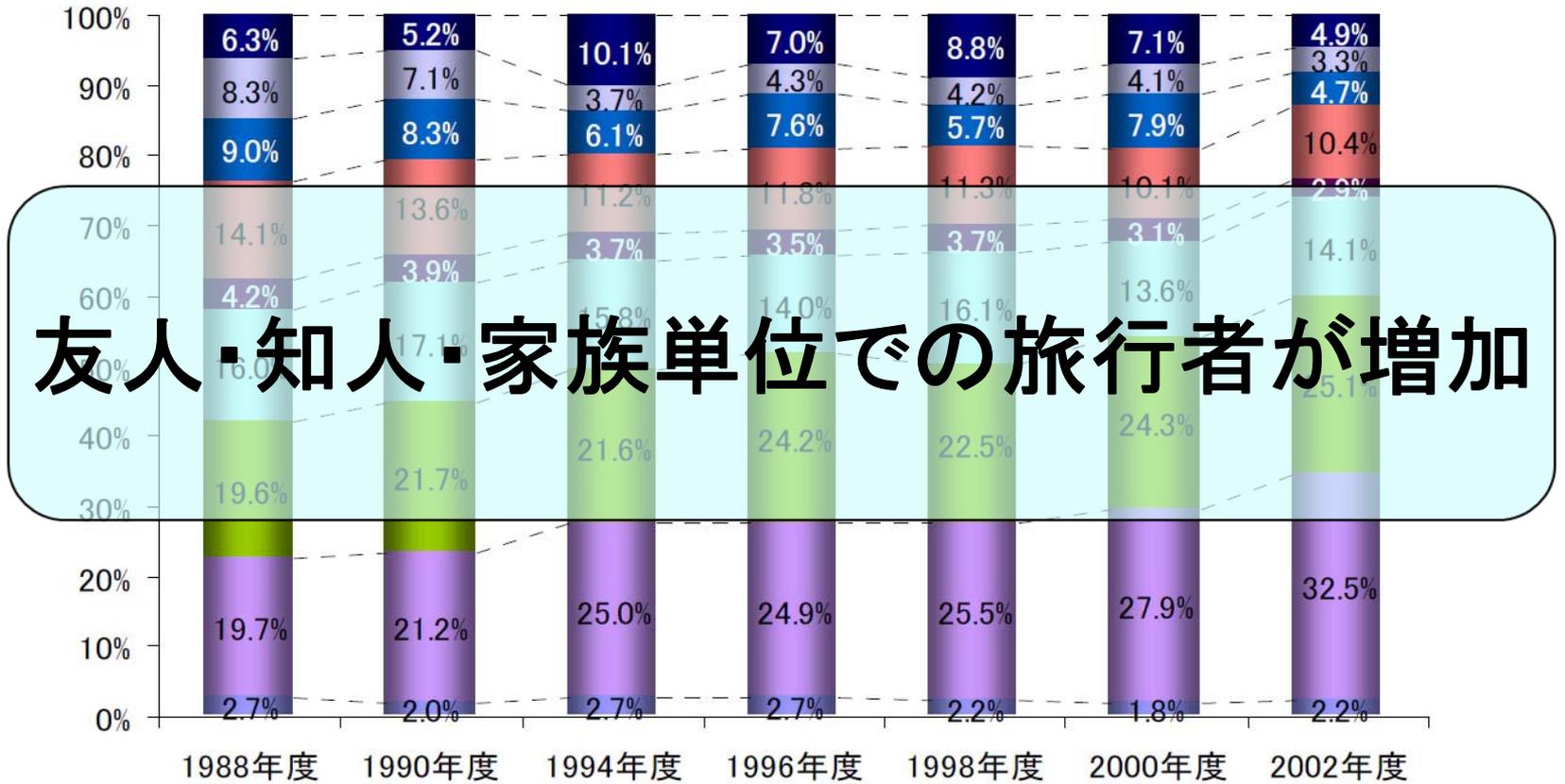
【男性】



出所:財団法人日本観光協会「観光の実態と志向」より

# 客層の変化(その2)

旅行同行者の推移



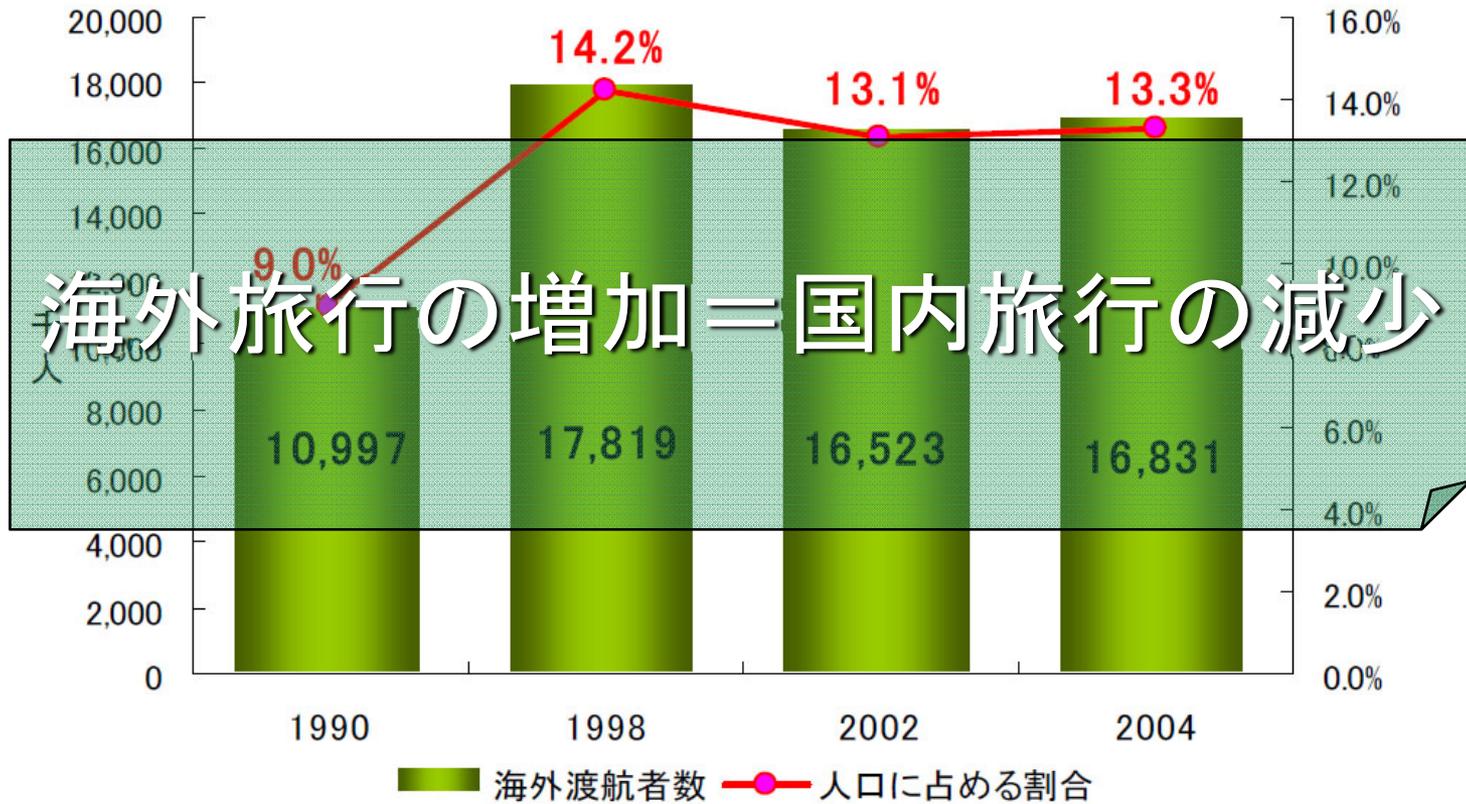
友人・知人・家族単位での旅行者が増加

■ 1人 ■ 2~3人 ■ 4~5人 ■ 6~10人 ■ 11人~14人 ■ 15人~30人 ■ 31人~50人 ■ 51人以上 ■ 不明

出所: 株式会社ジェイティービー「JTB 宿泊白書」より

# 海外旅行の増加

## 海外渡航者数推移とその人口比



出所: 入国管理局「出入国管理統計」より

# その他の懸念要素

- バブル期に建設した大型施設の費用返済
- 宿泊施設の倒産数が依然として増加傾向  
(06～07年の景気回復でも業績改善の兆し見えず)
- ネット情報による比較、対象の競争激化と完全な弱肉強食市場

# 事例紹介

## スキー旅行(ウィンタースポーツ)

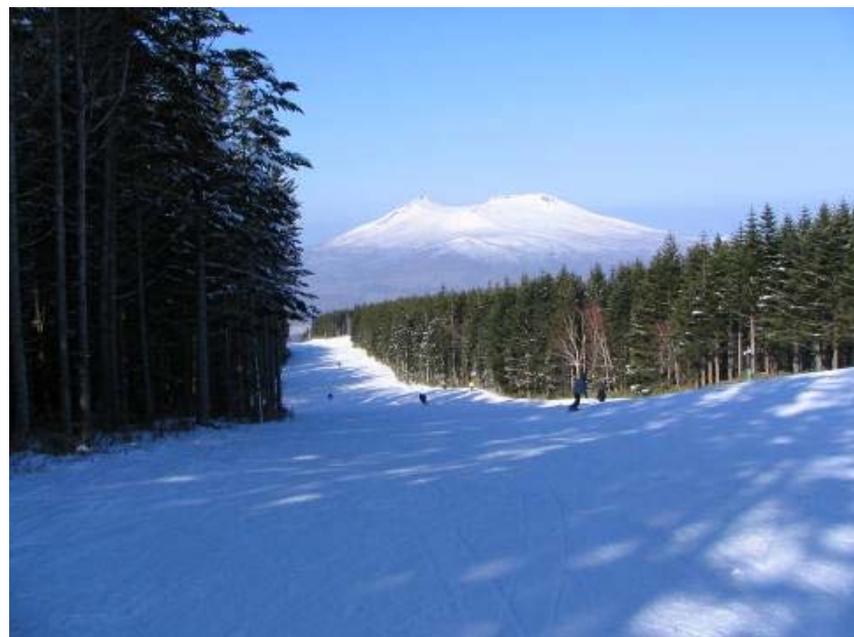


# 減少が止まらないスキー旅行者

行ってみたい旅行タイプの変化

1998年		2002年	
1	温泉旅行	1	温泉旅行
2	自然観光	2	自然観光
3	グルメ	3	テーマパーク
4	歴史・文化観光	4	歴史・文化観光
5	テーマパーク	5	グルメ
6	おしゃべり旅行	6	海浜リゾート
7	海浜リゾート	7	おしゃべり旅行
8	高原リゾート	8	高原リゾート
9	ショッピング	9	都市観光
10	スキー	10	ショッピング
11	都市観光	11	町並み散策
12	町並み散策	12	スキー

↓明らかに利用者の減少が見られる最近のゲレンデ↓



出所:財団法人日本交通公社「旅行者動向」より

**\* 2003年からはランク外**

# 非常に厳しい経営状況

・スキー業縮小のあおりを受け、地元の宿泊業、飲食業、お土産業、宅配業、温泉や観光といったアトラクションにも大きな打撃を受けている。

スキー場数の推移

	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
施設数 (箇所)	723*	719*	718*	714*	708*
伸び率 (%)	0.1	△0.6	△0.1	△0.6	△0.8
新設公営施設	1	0	1	0	0
新設民営施設	1	1	1	0	0
新設施設 合計	2	1	2	0	0
確認された廃業	1	5	3	4	6

\* 廃業スキー場を減じた数  
民営施設数には第3セクターを含む

日本自由時間スポーツ研究所調べ

主な県別スキー場入れこみ数の推移 (単位:千人)

	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
新潟県	9,393	9,187	8,698	7,762	6,772 (△128)
長野県	11,035	10,780	10,465	9,343	8,795 (△5.9)
群馬県	3,190	3,301	3,387	3,100	2,956 (△4.6)
福島県	2,784	2,531	2,358	2,246	1,852 (△17.5)
宮城県	774	666	610	510	525 (+2.9)
山形県	1,905	1,795	1,710	1,494	1,370 (△8.3)
岩手県	2,185	1,982	1,781	1,495	1,421 (△4.9)
秋田県	1,306	1,194	1,135	948	888 (△6.3)
合計	32,572	31,436	30,144	26,898	24,579
伸び率	△10.5	△3.5	△4.1	△10.8	△8.6

\*各県観光関係県集計データを参考。集計方法等に違いがある。日本自由時間スポーツ研究所調べ

●福島県データ訂正のため、福島県および合計に関するデータ修正有

# スキー旅行の取り組み

\* この部分にビデオ資料を挿入予定  
(容量の関係でビデオデータは  
当日持参して挿入します)

# その他の取り組み

## スキー場の取り組み

### ◆白馬五竜スキー場(白馬村)

長野、岐阜、兵庫、島根、広島の5県7スキー場の共通シーズン券

### ◆志賀高原(山ノ内町)と白馬八方尾根スキー場(白馬村)

志賀高原エリアの21スキー場と白馬八方尾根スキー場の共通シーズン券

### ◆白馬山ろく(白馬村)

白馬村内のスキー場7カ所で、1日ごとに1スキー場で利用出来る2日連続の共通リフト券

### ◆戸狩温泉スキー場(飯山市)

子どもに人気のあるゲーム「オシャレ魔女ラブandベリー」イベント

### ◆ヘブンスそのはらスノーワールド(阿智村)

人気キャラクター「ハローキティ」をメインキャラクターとして採用

### ◆富士見パノラマリゾート(富士見町)

ゲレンデを巡回するボランティアスタッフの無料ワンポイントレッスン

### ◆佐久スキーガーデンパラダ(佐久市)

上信越道佐久平PAとエスカレーターで直結した全国唯一のハイウエーゲレンデ

# 今後の課題と展望

## 今後も懸念される課題

- 温暖化や異常気象による積雪量の不安定化
- 拡大傾向にある他レジャーの更なる驚異
- 家庭の所得低下

## 対策と展望

- 他業種とのコラボレーション
- 海外からのスキー客誘致  
(雪の降らない国などからの顧客獲得)
- オフシーズンの集客増対策  
(夏場の利用方やイベントの新規開拓など)



# 観光客数増減の原因比較

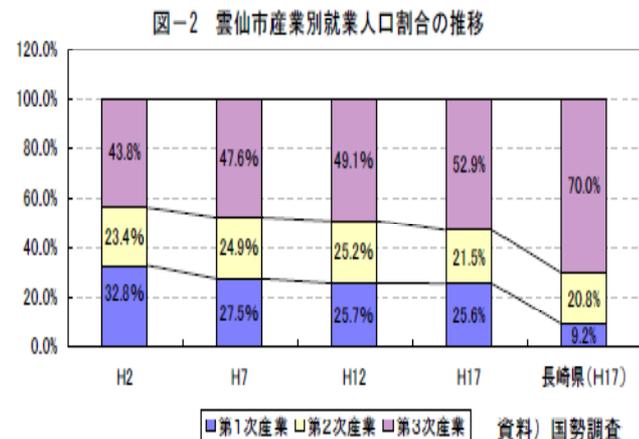
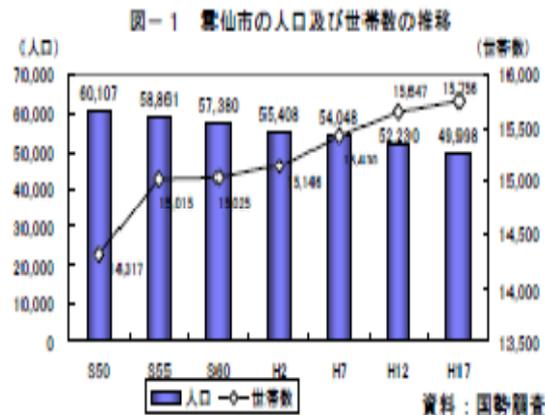
雲仙温泉地域と秋保温泉地域の  
観光客増減の比較

# 観光地の現状

- 観光地全体を見ると、観光客の増加要素は「景観保護関連」「受け入れ体制整備」「PR・プロモーション関係」「人材育成関連」「観光施設関連」などの整備が上げられる
- 観光客の評価としては「町並み」と「食事」が特に重要。これは雲仙も秋保もともに共通の課題である

# 雲仙温泉地域（減少地域）

- 雲仙地獄をはじめ日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園等の雄大な自然環境と日本有数の歴史ある温泉街
- 人口は、急激に減少
- 第3次産業就業構成比が増加傾向
- 雲仙市有効求人倍率は、0.61倍と非常に厳しい水準 → 労働力不足



# 雲仙温泉地域の観光客減少の原因

- 雲仙温泉の宿泊客延数は平成2年の約92万人をピークに、同年雲仙普賢岳の噴火を境に翌年(平成3年)より観光客は減少傾向
- 平成17年には47万人となる
- 沖縄もテロによる影響があった。観光は安全でなければ成立しない。
- 安全でありこれまで以上の魅力をアピールする必要がある
- 若い労働力が流出し地域の産業が低迷
- 地域活性化の遅れ→観光産業へ悪影響

# 雲仙温泉地域の取り組み

- 企画ツアー
- 体験型観光の推進
- ガイド・インストラクター育成
- まちづくりの取り組み
- 観光客のニーズに合わせた食の提供
- 情報発信・PR体制の強化
- 修学旅行誘致

# 秋保温泉地域(増加地域)

- 「秋保工芸の里」 宮城県仙台市太白区秋保町の秋保温泉郷に位置
- 県立自然公園である磊々峡、二口溪谷、国指定名勝の秋保大滝などがある
- 秋保温泉郷は兵庫県有馬温泉、愛媛県道後温泉と並ぶ日本三名湯のひとつ

# バイパスの効果

- 生活道であるバイパスの整備効果（一般県道秋保温泉愛子線に注目）
- 新道開通で交通容量が増大 → 休日の観光ルートとしても確立 → 観光バスの乗り入れ増も大きく影響
- 地域全体の新興活性化には「点」と「点」を結ぶことが重要

# 秋保温泉地域の観光客増加の原因

- 老舗旅館は「伝承千年」をうたっている
- 歴史ある文化の中に「もてなしの心」がある
- これからの観光は、見るだけでは魅力に乏しく、**創作、体験型観光**が迫られてきている。
- 見たり、聞いたり、味わったり、作ったりしたいという諸活動が、ここしかないという固有性をもった大きな満足感を与える。見る観光から創作する観光への**質の転換**が必要
- 交通整備(**バイパス**の開通)による地域の活性化

# 秋保温泉地域の取り組み

- 里が孤立した活動を行うのでは、集客の面での成果を上げることについて問題がある
- 孤立した活動を連携を持った広がりのある「面」としての活動へと発展
- 自然資源に恵まれた秋保地区は観光地として利用されてきたものの、駐車場、トイレ等の整備の外に施設を新たに建設するなどの動きはあまり積極的には行われてはこなかった
- 「点」である他の観光施設の存在と、それらを結ぶ「線」として交通の果たす役割が重要

# 雲仙と秋保の共通点と相違点

- 共通点: 「町並み」と「食事」と言う観光客のニーズを満たすことが必要だと言う点では共通
- 相違点: 地域活性化のための取り組み方の違い
  - 雲仙は地域活性化のために若い労働力の流出をとめられなかつた
  - 秋保は地域活性のためにまずバイパスをつなぎ交通問題を解決した

# 結論

- 観光客のニーズを分析しそれを満たす工夫が必要。
- 顧客満足から顧客感動への変化に対応すること(ホスピタリティー・もてなしの心)
- 観光を活性化させるにはまず地域活性化が必要であること
- 新しい発想を取り入れていくこと(バイパスのような点と点を結ぶダイナミックな発想)

# リゾートホテルにおける 地域別客数増減要因の比較

沖縄県と那須塩原市(栃木県)

# リゾートホテルの需要

- 団塊の世代が定年を迎える→旅行志向の高いシニア層の増加
- 富裕層の増加
- 訪日外国人旅行者の増加

# 全国主要リゾート宿泊客数の推移

リゾート地	宿泊者数(単位:千人)					変動率				
	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	00-01年	01-02年	02-03年	03-04年	00-04年
京都市	9,423	9,917	10,115	10,781	11,826	5.20%	2.00%	6.60%	9.70%	<b>25.50%</b>
沖縄県	4,521	4,433	4,835	5,085	5,153	▲1.9%	9.10%	5.20%	1.30%	<b>14.00%</b>
札幌市	4,246	4,430	4,532	4,680	4,930	4.30%	2.30%	3.30%	5.30%	<b>16.10%</b>
福岡市	4,752	4,599	4,608	4,947	4,844	▲3.2%	0.20%	7.40%	▲2.1%	<b>1.90%</b>
箱根町	4,691	4,743	4,689	4,624	4,633	1.10%	▲1.1%	▲1.4%	0.20%	▲1.2%
横浜市	3,730	3,947	4,124	4,135	4,372	5.80%	4.50%	0.30%	5.70%	<b>17.20%</b>
別府市	4,048	4,052	4,006	4,001	3,921	0.10%	▲1.1%	▲0.1%	▲2.0%	▲3.1%
軽井沢	4,470	4,537	4,335	3,737	3,879	1.50%	▲4.5%	▲13.8%	3.80%	▲13.2%
伊豆(伊東市)	2,911	2,892	2,913	2,989	2,723	▲0.7%	0.70%	2.60%	▲8.9%	▲6.5%
那須塩原	1,482	1,557	1,505	1,395	1,294	5.10%	▲3.3%	▲7.4%	▲7.2%	▲12.7%
合計	<b>44,273</b>	<b>45,108</b>	<b>45,661</b>	<b>46,373</b>	<b>47,575</b>	1.90%	1.20%	1.60%	2.60%	<b>7.50%</b>

# 客数増加要因

## 沖縄県のリゾートホテル

- 9.11テロによる客数減少から回復（官民挙げてのキャンペーン、低価格商品の積極的な供給）→沖縄ブーム
- 綺麗な海、自然、暖かい気候
- 航空路の増便
- 宿泊施設の増加
- 修学旅行の増加

# 客数減少要因

## 那須塩原市（栃木県）のリゾートホテル

- 増加地域（沖縄や京都）と比べると観光資源の魅力は劣る
- 客数減少による経営悪化→ホテル休止→宿泊施設減少による観光客減少
- 天候不順

# リゾートホテルの受ける影響

- 景気の変動
- 季節の変動
- 周辺施設の動向
- 自然災害や社会情勢
- 周辺環境の変化

# リゾートホテルの課題

- 季節や天候に影響されないサービス
- 安定的な価格
- 周辺環境への配慮
- 団塊世代や富裕層をターゲットにする
- 地域のイメージアップ

終